坂本龍馬

音更町立
共栄中学校
1年C組6番
伊勢 香花

倒幕の立役者の1人である坂本龍馬。行動力を持ち、優れた人脈を幅広く持っていた。このように他にはない柔軟性を兼ね備えた坂本龍馬について調べてみた。

坂本龍馬の一生

1835年（0歳）
土佐国（今の高知県）で生まれた。

1853年（19歳）
剣術修行のため江戸に行き、千葉定吉道場に入門。
黒船が来航、幕府の動乱が始まる。

1861年（27歳）
土佐勤王党に入党。

1862年（28歳）
脱藩、勝海舟の弟子になる。

1866年（32歳）
薩摩藩と長州藩を仲直りさせ、薩長同盟を結ぶ。寺田屋で幕府の役人に襲撃されるが、恋人・お龍により、難を逃れる。

1867年（33歳）
土佐藩の偉い人であった後藤象二郎と会談。新しい国の基本となる「船中八策」を作る。また、大政奉還の策を後藤象二郎に伝える。
京都滞在中、襲撃を受け暗殺される。

日本を今一度洗濯いたし申候

この言葉は坂本龍馬が使われた表現だ。龍馬は勝海舟の弟子入りして、神戸の海軍塾を創設に向けて実務を担当の一つである。龍馬がしはじめたころに送られたものである。

3年（1863）に姉の乙女あてに送った手紙の中で

大政奉還をとなえるも直後に暗殺

1867年6月、長崎から兵庫へ向かう船の上で、土佐藩の後藤象二郎（ごとうしょうじろう）と大政奉還について話し合う。その際、海援隊士・長岡健吉（ながおかけんきち）に船中八策を書き留めさせた。10月3日、後藤象二郎はこれに基づいた、大政奉還建白書を土佐藩の名で将軍・徳川慶喜に提出する。そして1867年10月15日、ついに大政奉還が実現。しかし大政奉還からわずか1ヶ月、龍馬は京都河原町の近江屋にて、何者かに暗殺される。京都見廻組の犯行が有力視されているが、真相はハッキリしていない。ともに襲撃された中岡慎太郎とともに、京都の地で眠っている。

夢中で日を過ごしておれば、いつかはわかる時が来る。

坂本龍馬が残した言葉である。↳

どんな側面にも良い点や悪い点があり、それはどんな観方をするかによっても変わってくる。やると決めたからにはそこに集中し、夢中になることが重要である。やる理由は1つあればいい。自分がやりたいからやると思うことができれば、自分らしく生きられる。何かを始めるのに遅すぎることはない。毎日を頑張って生きよう。毎日を夢中に生きよう。

日本初の新婚旅行をしたのは龍馬

1866年1月21日、薩長同盟が成立した。そして、その2日後である23日、龍馬は京都の寺田屋で襲撃される。妻・お龍のおかげで命は助かったが、龍馬は両手の指に深い刀傷を受ける。薩摩藩に保護された龍馬は、お龍とともに薩摩の船で鹿児島まで湯治に向かった。これが、日本初の新婚旅行だったと言われている。

高千穂峰の山頂で、天の逆鉾を抜いてみたり、ピストルで鳥を撃ち落としてみたりと、2人で楽しい時間を過ごしていた。

坂本龍馬はどんな性格だった？

温和でおおらかな人物だった

龍馬と関わりを持った長州藩士・三吉慎蔵（みよししんぞう）は龍馬の人物像について、「過激なことを言うことはなく、声高に意見を口にすることもない。極めて大人しく温和な人だ。」と評している。このように龍馬は人に好かれる温和な性質を持っていたことがわかる。

「いのち大事に」のスタンス

龍馬が生きた時代は、「国のため、志のためにならば、命をも捨てる」という時代であった。多くの志ある若者や知識人たちが、暗殺や切腹によってその命を散らしており、そのような幕府の時代をきして「日本刀が最も多くの血を吸った時代」と評価する説も存在しているほどだ。この「いのち大事に」のスタンスが分かるエピソードがある。失態を犯した従弟である山本数馬が切腹を申し付けられた際、龍馬が秘密裏に彼の元を訪れて、「こんなことで死ぬなどバカバカしい。」と彼を逃がしたエピソードだ。他にも、剣術や薙刀が達者でありながら実戦を好まない性質であったそうだ。このように龍馬は「いのち大事に」というスタンスを大切にしていたことがわかる。

編集後記

この歴史新聞を書いて、龍馬のことがより深く分かった。